

先人たちが築いた
近代化の礎いしずえと文化が
息づくまち



おおむたし
大牟田市

おおむた「大蛇山」まつり
江戸時代に起源を持つ祭礼行事「大蛇山」。大蛇を模した長さ10mもの山車が火煙を吐きながら街を練り歩く。開催は7月下旬



大牟田市動物園

動物の幸せを願う独自の取り組みで、全国から注目を集める。運動不足の解消も考えた「ライオンの肉さがし」は、迫力ある姿を見ることができる人気イベント

大牟田市市民活動等多目的交流施設 えるる

子どもから高齢者まで、誰もが集い、交流し、学べる施設。子育て世代の交流の場である「つどいの広場」では子育て講座、お話し会、リズム遊びなどを実施



カルタックスおおむた

日本のかかるた発祥の地を記念して誕生。全国で唯一のかるたに特化した資料館で、世界中の珍しいかるたやトランプを展示する。図書館も併設



三井港倶楽部

明治41(1908)年、三池港開港に伴い、船員の休憩所や政財界の社交場として建設。現在はレストランや結婚式場として営業



諏訪公園

22ヘクタールもの敷地を持つ総合公園。散策路や木製大型遊具がそろそろレクリエーションゾーンなどを備え、親子連れでにぎわう。初夏には艶やかな菖蒲が美しい



普光寺

823年に開山された天台宗の古寺。本尊の千手観音は秘仏で、25年に一度開帳される。樹齢450余年といわれる八重咲き梅「臥龍梅」の名所でもある

**全ての市立学校で
取り組む「ESD」**



「ESD」とは、持続可能な開発のための教育のこと。グローバルな人材育成を目的に、ESDに取り組む「ユネスコスクール」に全ての市立学校が加盟しています。

「世界遺産」「環境」「福祉」「国際理解」のテーマから、各校の特色を生かした学習を行っており、身近にあるさまざまな問題について自分たちができることを子どもたち自ら考え、行動できる力を身につけています。

福岡県の最南端に位置する大牟田市は、平成29年3月に市制100周年を迎えました。

世界遺産「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」の構成資産の一つである三池炭鉱関連資産など、市民が大切に守り継承する歴史や伝統と、三池山や有明海といった豊かな自然などが共存する個性あふれるまちです。

次の100年に向け、それら地域の宝を生かしつつ、「人」を中心としたまちづくりが始まりました。「人が育ち、人ににぎわい、人を大切に迎えるまち」は、訪れる人をも優しく迎え入れてくれます。



ジャーフ坊

市制100周年を記念して誕生。大蛇の化身。「ゆるキャラグランプリ2018」では準グランプリを獲得した。自称、「まちの守り神」



**新たな100年に向け
「人」が輝くまちへ**

問い合わせ 大牟田市役所

大牟田市有明町2-3
☎0944-41-2222(代表)
ファクス0944-41-2552
<https://www.city.omuta.lg.jp/>



作刀

平安時代から続く刀鍛冶の歴史を持ち、「天下五剣」に数えられる国宝「大典太」などの名刀が数多く生まれた。今も刀匠による作刀が行われている



ダゴ(お好み焼き)

人口比に対するお好み焼き屋の数は全国屈指。地元では「ダゴ」とも呼ばれ、30cmを超えるものなど、店ごとに特徴の異なるお好み焼きが提供されている



FMたんと

「地域でつくる、地域のためのラジオ局」をコンセプトに平成28年開局。年齢も職業もさまざまな地元パーソナリティーが大牟田の話題やイベントを伝える



炭鉱の祭典

毎年11月3日に世界遺産に登録された宮原坑や三池港などの近代化産業遺産を一斉公開。諏訪川橋梁を渡る特別ウォークなども開催される



水かぶり(白かぶり)

成人の日に三池弥剣神社(祇園宮)で行われる神事。木臼に入った水を豪快にかぶり、火災よけを祈願。放り投げた臼の迫力に歓声が沸き起こる



1. 「三池よきもの会」の皆さん。毎年10月に開催されるカルタックスおおむたでの大会に協力するなど、普及活動も行う / 2. 現在は初心者からE級からB級までのメンバーが所属。地域の公民館を利用し、週3日のペースで対戦形式の練習を続けている / 3. 昨年、永世クイーン^{くわいじん}の称号を持つ楠木早紀さん(写真右)を招いて開催された競技かるたイベントの様子

日本のかるた
発祥の地から
競技かるたの
魅力を伝える

百人一首 競技かるた練習会 三池よきもの会

日本かるたの発祥の地といわれる大牟田・三池で、平成25年に発足した競技かるたの愛好会「三池よきもの会」。現在、市内外の小学生から社会人まで31人が所属し、各地で開催される公認大会や団体戦などに出場。各自が立てた目標に向かって切磋琢磨^{せつさくたくま}しています。

会を立ち上げた福島由紀^{ふくしまゆき}さんは「競技かるたは礼儀やマナーを重んじる競技。技術の向上だけでなく、子どもたちが美しく札を払えるようになったり、練習の成果や成長を感じたりする瞬間が一番うれしい」と語ります。

今年から福岡県内の各かるた団体と合同で福岡チームを編成し強豪に挑むプロジェクトを始動。「全国競技かるた中学生選手権大会」への初出場、そして優勝を目指します。



1. 「三池港をこれからも誰もが気軽に来てもらえる場所にしたい」と理事長の入江裕二郎さん / 2. 実施するイベントの中でも評判なのが、5月のこのぼり。昨年は市民から寄付された約110匹が空を舞った / 3. 3月1回の会合で意見をメンバーで出し合って企画運営するイベントは、「炭都グルメ&レトロフェス」など、どれも個性豊か

まちの宝物
「三池港」に
人が集まる
仕掛けづくりを

NPO法人 三池港 未来のまちづくり会

三池港が世界遺産に登録された2カ月後、平成27年10月に「NPO法人三池港未来のまちづくり会」が発足しました。理事長を務めるのは、三池港近くの三川地区で生まれ育った入江裕二郎^{いりえゆうじろう}さん。

「かつてまちの中心は三池港であり、世界に開かれた三池港があったからこそ発展を遂げました。しかし現状は寂しくなるばかり。折しも三池港の世界遺産登録へ向けた取り組みが進んでいたこともあり、自分たちでも盛り上げようと、商店街の若手11人で立ち上げました」と入江さんは話します。

三川坑跡で、来場者の案内やオリジナルグッズ販売の他、年5~6回イベントを企画実施しています。そのかいあって平成30年は三川坑跡の来場者が昨年より6割増加しました。「継続が大事」と意気込む入江さんたちの活動は今後も精力的に続きます。



1. 代表の菅原知之さん。映画「みんなの学校」に感動し、大牟田で上映会を行ったのがグループを立ち上げたきっかけ / 2. 「なないろリボン」メンバーの皆さん / 3. 4月2日に開催される「世界自閉症啓発デー in おおむた」の実行委員としても積極的に活動。昨年は市庁舎をライトアップするなど自閉症への関心や理解を求めるイベントを開催した

専門分野を
越えた
つながり合いで
地域をサポート

なないろリボン

「大牟田という地域が抱える問題として、子どもたちの未来や高齢者を支えたいと考えた時、包括的な物の見方や横のつながりがこの先必要になる」という思いを抱いた菅原知之^{すがはらともよき}さんの呼びかけで、平成28年9月に発足したのが市民グループ「なないろリボン」です。

主に大牟田やその近郊で福祉、教育、医療などに従事する施設職員や一般市民など約10人が主要メンバーとして活動しています。勤務先の医療法人で企画・設立した地域交流施設「てととの広場」を使って、子育て、発達障がい、不登校などテーマを変えながら定期学習会を開催。「願いや夢を叶えられるまち」を実現するプラットフォームとして、ネットワークを生かし地域のサポートに努めています。



1. 平成26年に「グリーンバード大牟田チーム」を立ち上げた富山博史さん / 2. 週1回ゴミ拾いを行う。年間延べ400~500人が参加する大牟田チームは家族連れが多く、グリーンバード本部から「子どもに人気で賞」で全国1位に選ばれた実績を持つ / 3. 大牟田市動物園とコラボしたイベントでは、モルモット小屋のペンキ塗りを行った

「ゴミ拾いを通して
”地元愛”を育み
まちの活性化に
つなげていく

グリーンバード 大牟田チーム

子どもが生まれたのをきっかけに、大牟田の未来を考えたようになったという富山博史^{とみやまひろふみ}さん。「シャッター商店街に危機感を覚え、まちの活性化につながることをしようと思ったんです」と振り返ります。富山さんが着目したのは、「きれいな街は人の心もきれいにする」をコンセプトにした東京発のゴミ拾いボランティア団体「グリーンバード」。今や国内外で80以上のチームが活動しています。すぐに始められる手軽さと、企業やイベントとコラボしやすいことが魅力だといいます。

ゴミ拾いに参加すると家賃が安くなる「グリーンバード賃貸」や空き店舗を活用した「DIYリノベ」など不動産と飲食店を営む富山さんならではの取り組みもあり、楽しく参加してもらうことで「地元愛醸成」を図っています。

